

社会医療法人博愛会 相良病院、シーメンス製のデジタルマンモグラフィと超音波画像診断装置を両方搭載した、乳がん検診車を導入

- 日本人女性に多い「デンスプレスト」を考慮し、マンモグラフィと超音波画像診断装置を併用した乳がん検診を実現
- 2016年9月より、検診施設のない離島などへき地を含む鹿児島県下を巡回予定
- 技師・看護師・ドライバーすべて女性のチームで構成

社会医療法人博愛会 相良病院(鹿児島県鹿児島市、理事長:相良吉昭、以下、相良病院)とシーメンスヘルスケア株式会社(東京都品川区、代表取締役社長兼 CEO:森秀顕、以下シーメンス)はこのほど、相良病院の乳がん検診車向けにシーメンス製のデジタルマンモグラフィ「MAMMOMAT Fusion(マンモマート フュージョン)」1台と、超音波画像診断装置「ACUSON(アキュソン)P500」2台を採用することで合意しました。

相良病院ではすでに、デジタルマンモグラフィ検診車とエコー(超音波)検診車をそれぞれ導入していますが、今回のマンモグラフィと超音波装置が両方とも搭載された検診車の導入は、鹿児島県でも初となります。

本検診車は9月より、鹿児島県下(離島を含む)を巡回する予定です。

また、8月10日(水)鹿児島市のヘルスサポートセンター、11月4(金)~5(土)日に福岡県久留米市で開催される「第26回日本乳癌検診学会学術総会」の会場に本検診車を展示します。

SIEMENS

シーメンスヘルスケア株式会社
東京都品川区大崎 1-11-1
ゲートシティ大崎ウエストタワー



社会医療法人博愛会 相良病院
鹿児島県鹿児島市松原町 3-31

日本人に多く見られる「デンスブレスト」に対応

現在、30～60歳代の日本人女性が罹患するがんのうち、最も多いのは乳がんです*。また、欧米では乳がんを発症する年代のピークが60代後半なのに比べ、日本人では発症のピークが40代と若いのも特徴です*。厚生労働省は40歳以上の女性を対象に、2年に1度マンモグラフィによる検診を原則とするという提言をまとめています。しかし、日本人をはじめとするアジア人女性には、乳腺濃度が高いデンスブレスト(Dense Breast: 高濃度乳腺)の割合が多く、特にデンスブレストの乳房においてマンモグラフィの画像では、乳腺もがんのしこりも白く映し出されてしまい、がんを見つけにくいという現象も見られます。すでに米国ではデンスブレストの受診者に対し、個人の乳腺濃度を告げ、マンモグラフィと乳腺濃度の影響を受けない超音波検査の併用を推奨する州や、それに関連する法令を整える州も増えています。乳腺濃度には個人差があり、乳がん罹患のリスクも個人で異なることから、今後、日本でもさらに個別化した検診が求められていくと考えられます。

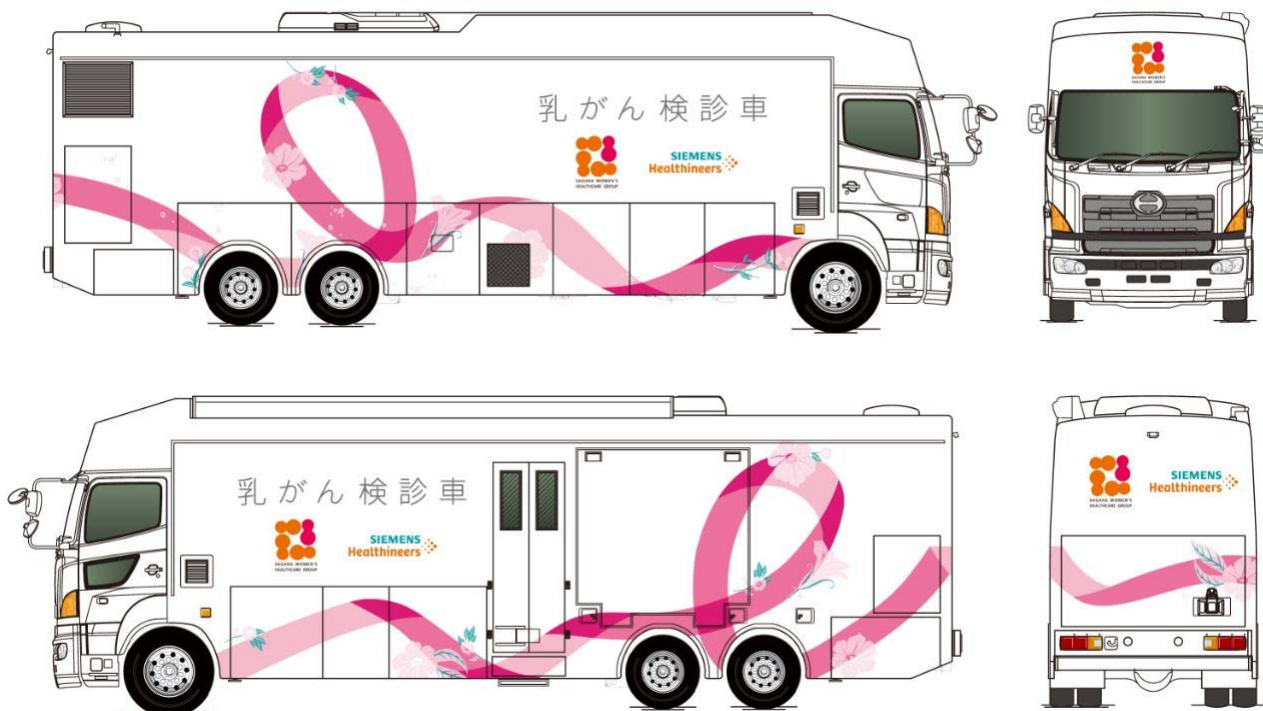
このような流れの中、相良病院では本年4月より、人間ドック・検診車でマンモグラフィによる乳がん検診において、個別に乳腺濃度を結果表にて通知する取り組みを始めました。受診者がデンスブレストだとわかった場合、次回から超音波装置による検診も合わせて推奨するようになっています。同様に、今回導入する検診車には2種類の装置が搭載され、必要に応じてマンモグラフィと超音波を併用するなど、個人に合った検診を行っていく予定です。

へき地の医療にも貢献

相良病院は、2014年に鹿児島県における「へき地医療拠点病院」に指定されました。勤務医師の不在や、診療支援の必要な状況が発生した場合などに、相良病院から医師を派遣し、地域住民の医療の確保と充実、へき地医療機関の医師の勤務環境改善を図ることを目的としています。また、乳腺科の医師が各地域の医療機関に赴き、乳腺科特別外来も展開しています。

* 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター「最新がん統計」(2011データ)より

プレスリリース
社会医療法人博愛会 相良病院
シーメンスヘルスケア株式会社



<写真>
乳がん検診車外観イメージ図

報道機関からのお問い合わせ先:

社会医療法人博愛会 相良病院

経営企画部 企画課

上山

TEL: 099-224-1811 / E-mail: ueyama@sagara.or.jp

シーメンスヘルスケア株式会社

コミュニケーション部 マーケティングコミュニケーショングループ

平山、中川

TEL: 03-3493-7617 / E-mail: rie.nakagawa@siemens.com

■ 社会医療法人博愛会 相良病院について

社会医療法人博愛会(鹿児島市)は1946年に開設し、相良病院附属プレストセンター、相良病院、さがらパース通りクリニック、さがら女性クリニックにて乳がん診療を中心とした女性医療の予防、検診から治療、緩和医療まで一貫した体制で医療提供を行っています。2014年8月、全国で初めて乳がん領域における「特定領域がん診療連携拠点病院」に、同年11月には鹿児島県における「へき地医療拠点病院」の認定を受け、離島をはじめとするへき地の医療機関への乳腺科医師の派遣など、地域医療に貢献しています。また、婦人科・甲状腺科・女性泌尿器科・女性内科も併設し、女性の一生を考えた体制を組み、医療サービスを提供しています。2015年度の社会医療法人博愛会の売上高は約40億円、社員数はおよそ350人です。

2015年4月には医療法人プレストピア(宮崎県)と業務提携し、さがらウィメンズヘルスケアグループを設立しました。2015年グループ全体の手術症例数は947件と、国内有数の実績を誇ります。また、2016年4月前立腺癌で国内有数の手術件数を誇る医療法人真栄会にいむら病院と業務提携し、ヘルスケアパートナーズネットワークを設立しました。今後、更に質が高く、効果的ながん医療を進めて参ります。詳しい情報は、<http://www.sagara.or.jp>にてご覧いただけます。

■ シーメンス AG について

シーメンス AG(本社:ベルリンおよびミュンヘン)は、165年以上にわたり、卓越したエンジニアリング、イノベーション、品質と信頼性、そして国際性を象徴するグローバル企業でありつづけています。電化、自動化、デジタル化の分野を中心に、世界200カ国以上で事業を展開しています。シーメンスはエネルギー効率に優れた省資源技術を世界で最も多く提供している企業のひとつであり、洋上風力発電の建造においては世界一、コンバインドサイクル発電ではタービンの主要サプライヤー、送電ソリューションでは大手プロバイダー、そしてインフラストラクチャー・ソリューションならびに産業向け自動化ソリューションとソフトウェア・ソリューションのパイオニアです。さらにシーメンスは、コンピュータ断層撮影装置(CT)や磁気共鳴画像診断装置(MR)などの医用画像診断装置の大手サプライヤーでもあり、臨床検査および医療情報ITのリーダーでもあります。2015年9月末に終了した2015年度において、継続事業の売上高は756億ユーロ、純利益は74億ユーロでした。2015年9月末時点の全世界の社員数は34万8,000人です。詳しい情報は、www.siemens.comにてご覧いただけます。

■ 日本におけるシーメンスグループ

シーメンスは、1887年に東京・築地に初めてのオフィスを開設して以来、128年にわたり日本のお客様から信頼を寄せられるパートナーとして尽力してまいりました。海外のシーメンス同様、都市化、人口動態、気候変動、グローバル化、そしてデジタル化といったメガトレンドに対して最適なソリューションをご提案しています。シーメンスは先進的な製品やサービス、ソリューションにより、お客様に競争優位性をご提供しつづけるとともに、昨今の環境問題に対応してまいります。2015年9月末に終了した2015年度において、日本のシーメンスの売上高は約1,600億円、社員数はおよそ2,000人です。詳しい情報は www.siemens.co.jpにてご覧いただけます。